

広島市植物公園 見どころ案内

7/13(土)~8/31(土) サマーフェア開催中

アナベル

(アジサイ科)
北米原産のアジサイ。純白の花は大きく、育てやすいことから庭植えにお勧めの品種です。うらら池沿いにたくさん植えています。

2019年7月13日

通巻第423号

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (6/15~7/24)

冬虫夏草と昆虫展

◇展示温室 (6/19 ~7/15)

夏のカラフルリーフ展

オウゴンオニユリ (ユリ科)

オニユリの突然変異種で、自生地は長崎県対馬では種子をつけるオニユリがあるためにできたと考えられています。名前のおり黄色の花を咲かせますが、盗掘などによって野生種は絶滅したとされています。

ロシアヒマワリ (キク科)

北アメリカ原産のヒマワリですが、草丈が3mほどになり、大きな黄色い花をつけています。名前の由来はこの大きなヒマワリをロシア人が好み、庭に多く植栽していることから来ています。

ダシリリオン (キジカクシ科)

米国~メキシコの乾燥地帯原産。植物園では4年ぶり、5回目の開花になり、5mにもなる花穂を上げています。葉には丈夫な繊維があり、屋根やかご、ロープの原料になります。

ソーセージノキ

(ノウゼンカズラ科)

アフリカ西部辺りに分布し、一属一種で、花は夜に咲きます。8月上旬になると、ソーセージのような実をつけます。受粉はコウモリが行います。

マンデビラ (キョウチクトウ科)

中央アメリカ~アルゼンチン原産のつる性の植物で、花を次々に咲かせるため、長期間楽しむことができます。

ムラサキギボウシ

(キジカクシ科)

東南アジア原産のギボウシの紫色のもので、ひときわ目を引きまます。

フサフジウツギ

(ゴマノハグサ科)

中国原産の植物で、園芸品種はブッドレアの名前で販売されています。夏に円錐状の花序を出して小さな花を長期間咲かせ、蝶がよく集まるためバタフライブッシュとも呼ばれます。

トケイソウ (トケイソウ科)

三つに分裂した雌しべが時計の針に見えることからこの名があります。大温室の中にはクダモトケイソウ(パッションフルーツ)もあります。

ニンジンボク、セイヨウニンジンボク (シソ科)

7月頃からすみれ色の花をつけます。生育旺盛で育てやすい樹木です。開花期も長く、穂状の花序をつけ、芳香を持ちます。

イエローカサブランカ (ユリ科)

別名コンカドール。オリエンタルのユリと中国原産のランペトリリーの交配種。花の中央部付近からが黄色になり、雄しべは赤色です。

- ✿毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿
- ✿毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿
- ✿7月6日~21日までの土日に「カブトムシと学ぶ樹木」を行います。(7月14日は除く) 詳しくは園内掲示のポスターをご覧ください。✿

